

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2016年8月

主な出来事

- カビラ大統領は、市民の殺害が多発している北キブ州ベニ地区(3日-6日)とブテンボ地区(9日)を訪問した。
- カビラ大統領は、北キブ州訪問にあわせ、ウガンダ側でムセベニ大統領と(4日)、ルワンダ側でカガメ大統領と(12日)バイ会談を行った。また、7日にはデビ・チャド大統領就任式に出席するため、ンジャメナを訪れた。
- 7日夜から8日朝にかけて、北キブ州ルチュル地区におけるナンデ族とフツ族の民族間紛争により、14名が殺害された。
- 7-8日、中央カサイ州ディバヤ地区 Tshimbulu(州都カナンガ市の南東117キロ)で、伝統的酋長(chef coutumier)のカムウィナ・ンサブ(Kamwina Nsapu)が率いる民兵組織が警察幹部の家を襲撃、1名の警察官を殺害し、その後、警察、独立国家選挙委員会(CENI)、裁判所関連施設に放火した。また、現場で状況を調査していた警察官4名が民兵に惨殺され、治安当局も民兵側4名を殺害した。9日、ボシャブ副首相兼内務大臣は事件を受け急遽カナンガ入りし、地元当局者と治安回復について会合を行った。13-14日、ンサブの率いる民兵組織と治安当局による衝突が発生、11名の警察官とンサブを含む8名の民兵が死亡、4名の警察官が行方不明となっている。
- 14日、李洙墉(Li Suyong)氏率いる北朝鮮外交団は、与党 PPRD の招待を受け、キンシャサを訪れた。訪問の目的、日程等は不明。
- 13-14日未明にかけ、北キブ州ベニ地区 Rwangoma で、ADF によるものと推測される、住民の大量殺害が発生、マスンブコ・ベニ市長はこれまでに42名死亡と発表、ベニ市の市民社会代表は51名死亡、34軒の家屋が放火されたと伝えた。
- 15日、メンデ・メディア大臣兼政府報道官は、ベニ地区で再発した大量殺害を受け、15日から3日間の国喪を決定した。今回の事件は、カビラ大統領が同地区を訪問した72時間後に発生している。
- 16日、マタタ首相、ボシャブ副首相兼内務大臣らは軍、警察関係者らとともに、ベニ地区の殺害現場を訪問した。
- 18日、カビラ大統領は、北キブ州ゴマ市を本拠地とする青年活動家組織「LUCHA」メンバー46名と会談を行い、不当に逮捕されているメンバーらの釈放については48時間以内に回答を行うと約束した。
- 20日、チセケディ党首が代表を務める野党プラットフォーム「団結(Rassemblement)」は、コジョ政治対話調停者が呼びかけた準備委員会への参加を拒否した。また、ケンゴ上院議長が代表を務めるプラットフォーム「共和国野党(Opposition Republicaine)」も準備委員会への参加を拒否した(その後「共和国野党」は26日から、参加に転じた)。
- 23日~27日、政治対話の調整に向けた「準備委員会(comite preparatoire)」が開催された。
- 27日、コジョ政治対話調停者は、9月1日から2週間、政治対話を実施すると発表、また、政治対話計画書(feuille de route)が署名・配布された。

1. 内政

(1) 外務省職員のストライキ

- ・10日、外務省職員は、外交官の身分と、パスポートとビザから得る収入の分配を求め、ストライキに突入した。
- ・15日、同ストライキは29日までの期限付で一時中止された。

(2) 野党の動向

ア UDPS 支持者と思われる市民の殺害

- ・2日、キンシャサ市リメテ地区で、UDPS(チセケディ党首)の支持者と思われる男性が銃撃されて死亡、あたりでは一時騒動が発生した。

イ UDPS がマブング幹事長を更迭

- ・11日、UDPS がマブング幹事長を更迭したと報じられた。同幹事長は、カビラ大統領の呼びかけた政治対話に好意的であるなど、あまりにもカビラ大統領陣営に媚びる立場をとったことをチセケディ党首から問題視された模様。新幹事長には、これまでルアラバ州(旧カタンガ州)の州代表を務めたカブンダ氏(Jean-Marc KABUNDA)が指名された。

ウ UNC、ATD などが野党連合ダイナミックから追放

- ・24日、UNC(カメレ党首)、ATD(マキラ党首(南ウバンギ州知事))ら野党連合ダイナミックの4政党が、同連合から追放された。これら4政党は、同連合の方針に反し、23日に開始した政治対話への準備委員会に参加したことから今回の決定が行われた。

エ エワンガ UNC 幹事長が幹事長を辞任

- ・30日、UNC(カメレ党首)のエワンガ幹事長が、政治対話に参加するカメレ党首の方針に従えないとの理由で、同党の幹事長の職を辞した。なお、UNC には引き続き党員として留まる。

(3) 選挙・政治対話の動向

ア 政治対話のための「支援グループ」が第3回会合をキンシャサで開催

- ・4-5日、コンゴ(民)における政治対話の開催を促すための「支援グループ(Groupe de soutien)」が、第3回会合をキンシャサで開催、国連、MONUSCO、EU、OIF、AU、SADC、ICGLR からの代表が参加した。

イ 政治対話のための「準備委員会(comite preparatoire)」を23-27日に開催

- ・20日、AU が政治対話調停者として指名したコジョ氏は、23日午前10時から、政治対話の調整に向けた「準備委員会(comite preparatoire)」を開催すると発表した。
- ・20日、チセケディ党首が代表を務める野党プラットフォーム「団結(Rassemblement)」は、コジョ政治対話調停者が呼びかけた、23日開催の準備委員会への参加を拒否すると発表した。また、ケンゴ上院議長が代表を務めるプラットフォーム「共和国野党(Opposition Republicaine)」も準備委員会への参加を拒否した(その後26日から、参加に転じた)。
- ・27日、23日から開催されていた政治対話のための「準備委員会」の閉会式が行われ、コジョ政治対話調停者は、9月1日から2週間、政治対話を実施すると発表、また、政治対話計画書(feuille de route)が署名・配布された。
- ・31日、在外コンゴ(民)人団体は、1日から開催される政治対話には参加しないと表明した。

2. 外交

(1) カビラ大統領が北キブ州ベニを視察後、ウガンダ側でムセベニ大統領とバイ会談を行う

- ・4日、カビラ大統領は訪問先の北キブ州ベニから、ウガンダのコンゴ(民)国境近くにあるカセセに移動、ムセベニ・ウガンダ大統領とバイ会談を行った。同会談では、北キブ州とウガンダの国境

管理における協力、北キブ州とイトウリ州の一部地域(キシンディ、ベニ、ブテンボ、ブニャ等)を、ウガンダ側から送電して電化することなどが協議された。

(2)カビラ大統領がデビ・チャド大統領の就任式に出席するためンジャメナを訪問

・7日、カビラ大統領は8日に開催されるデビ・チャド大統領就任式に出席するため、ンジャメナを訪問した。

(3)カビラ大統領がルワンダ側でカガメ大統領とバイ会談を行う

・12日、カビラ大統領は、ルワンダのコンゴ(民)国境沿いにあるルバヴ(Rubavu)で、カガメ・ルワンダ大統領とバイ会談を行い、長年不信関係にあった両国関係を再活性化することに合意した。

(4)北朝鮮外交団がキンシャサを訪問

・14日、李洙堉(Li Suyong)氏率いる北朝鮮外交団は、与党 PPRD の招待を受け、キンシャサを訪れた。訪問の目的、日程等は不明。

3. 東部及び大湖地域情勢

(1)カビラ大統領が北キブ州ベニ地区を訪問

・3日-6日、カビラ大統領は北キブ州ベニ地区を訪れた。大統領が同地を訪れるのは8か月ぶり2度目のこと。また、通常は大統領専用機で移動するところ、キンシャサからベニまで、民間機の Congo Airways (ナショナルフラッグ)で移動するというサプライズがあった。

(2)カビラ大統領が北キブ州ブテンボ地区を訪問

・9日、カビラ大統領は8日に開催されたデビ・チャド大統領就任式に出席した後、北キブ州ブテンボ地区を訪問した。

(3) 北キブ州ベニ地区・ブテンボ地区の治安状況

・8日、対 ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)作戦を行っていた11名の FARDC 兵士と1名の MONUSCO 軍兵士が交戦中に負傷、これら負傷者の救助に向かった MONUSCO 軍ヘリコプターが、ベニへの到着を試みた際に何者かに銃撃され、救出までに約24時間を要するという事態が発生した。

・13-14日未明にかけ、北キブ州ベニ地区 Rwangoma で、ADFによるものと推測される住民の大量殺害が発生、マズンブコ・ベニ市長はこれまでに42名死亡と発表、ベニ市の市民社会代表は51名死亡、34軒の家屋が放火されたと伝えた。

・メンデ・メディア大臣兼政府報道官は、再発した大量殺害を受け、15日から3日間の国喪を決定した。今回の事件は、カビラ大統領が同地区を訪問した72時間後に発生している。

・16日、マタタ首相、ボシャブ副首相兼内務大臣らは軍、警察関係者らとともに、ベニ地区の殺害現場を訪問した。

・17日、ベニ地区で、大量虐殺を招いた政府の無策ぶりに抗議するため、約100名の市民が集結、これら市民と警察を中心とする治安部隊の間で衝突が発生、銃撃を受けた市民1名が死亡、6名が負傷した(うち3名は銃撃による)。治安部隊側にも死者1名と負傷者3名が発生、また、ADFとの猜疑を受けた女性1名が市民からのリンチを受けて死亡した(18日付 Jeune Afrique)。

・18日、ボシャブ副首相兼内務大臣は、ベニ地区とブテンボ地区に夜間外出禁止令を発出すると宣言した。午後7時から午前6時までを外出禁止とし、同時間帯は治安当局以外の外出は認められない。

・16日-17日、ベニ地区マイモヤで、ADF とみられる集団による新たな襲撃が発生、市民3名が殺害された(17日付 Radio Okapi)。

・24日、ブテンボ地区で、ベニにおける大量殺害に加わったとの疑いをかけられた市民2名が、リンチを受けて焼き殺された(24日付)。

(4) 北キブ州ルチュル地区におけるナンデ族とフツ族の民族間紛争

・7日夜から8日朝にかけて、北キブ州ルチュル地区におけるナンデ族とフツ族の民族間紛争により、14名が殺害された。事件があったのは同地区キビリジ(Kibirizi)村、カフンガ(Kahunga)村、カシャリラ(Kashalira)村で、殺害されたのは民間人、コンゴ(民)国軍(FARDC)兵士等。

(5) カビラ大統領と LUCHA メンバーが会談、拘束されているメンバーらの釈放について回答を約束

・18日、カビラ大統領は、北キブ州ゴマ市を本拠地とする青年活動家組織「変化への闘争(LUCHA)」メンバー46名と会談を行った。LUCHA 側からは、政治空間がオープンとなり、今年中に、文明的な政権委譲が行われるよう訴え、また、国家情報局(ANR)による恣意的かつ不法な逮捕等をカビラ大統領に告発、これに対しカビラ大統領は、「LUCHA の要求は正当であり、彼らに対し破壊活動を行うメンバーであるとか、テロリストであるとかとみなしたことはない。不当に逮捕されているメンバーらの釈放については48時間以内に回答を行う」と約束した。

・19日、政府は約20名の政治・言論犯の釈放対象者リストを発表した。この中には、LUCHA の Fred Bauma、Filimbi の Yves Makwamba ら、カビラ大統領が検討を約束した青年活動家組織のメンバーが数名含まれている。野党プラットフォーム「団結」側は、同リストには、「団結」が釈放を求めている政治犯112名のうち、4名しか含まれておらず、また、2014年に逮捕された Eugene Diomi Ndongala、2015年1月に逮捕されて健康状態悪化が心配されている野党リーダー Jean-Claude Muyambo らが含まれていないことに反発している。

・29日、LUCHA の Fred Bauma、Filimbi の Yves Makwamba、人権活動家の Christopher Ngoy の3名が、野党、支援者の求めにより釈放された。

4. その他地域情勢

(1) 中央カサイ州(旧西カサイ州)で治安当局を狙った攻撃発生

・7-8日、中央カサイ州ディバヤ地区 Tshimbulu(州都カナンガ市の南東117キロ)で、伝統的酋長(chef coutumier)のカムウイナ・ンサプ(Kamwina Nsapu)が率いる民兵組織が警察幹部の家を襲撃、1名の警察官を殺害し、その後、警察、独立国家選挙委員会(CENI)、裁判所関連施設に放火した。また、現場で状況を調査していた警察官4名が民兵に惨殺され、治安当局も民兵側4名を殺害した。9日、ボシャブ副首相兼内務大臣は事件を受け急遽カナンガ入りし、地元当局者と治安回復について会合を行った。また、13日には、殺害された警察官の葬儀に参列した。

・13-14日、同地区 Tshimbulu で、ンサプの率いる民兵組織と治安当局による衝突が発生、11名の警察官とンサプを含む8名の民兵が死亡、4名の警察官が行方不明となっている。

(2) サンクル州(旧東カサイ州)における地元勢力間の権力争い

・12日、サンクル州カタコンベ地区の Okitodimba 村と Lotelama 村で、地元有力者2家族による権力争いが発生、7~15名が死亡、2つの学校を含む60家屋が放火された。オロンゴ・サンクル州知事によると、本件は、伝統的酋長の座をめぐる、Okitodimba 酋長派と、その座を狙う Soko Ekondo 派の間で発生した。

5. その他

(1) カトゥンビ前カタンガ州知事の有罪判決にかかる書記官の失踪

・3日、ルブンバシ簡易裁判所(tribunal de paix)の書記官2名は、カトゥンビ前カタンガ州知事の不動産問題において、シャンタル・ラマザニ裁判長が3年の懲役を言い渡した事案の書類とともに失踪した。

(2)選挙プロセス遅延は政府の責任とする報告書が発表

・5日、ニューヨーク大学国際協力センター(CIC)による研究プロジェクト「Groupe d'Etude sur le Congo(コンゴ(民)に関する研究グループ、GEC)」は報告書を発表、コンゴ(民)における大統領選挙プロセスの遅延は政府に責任があると非難した。

(3)ヒューマン・ライツ・ウォッチの Sawyer 所長が事実上の国外退去

・9日、人権などに関する調査報告を行う米 NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW)」の Ida Sawyer 所長が、コンゴ(民)当局から滞在ビザの更新を拒否され、同日夜にコンゴ(民)を離れた。HRW は本件に関し、政府による抑圧が増大している時期における、人権侵害報告書の発表を妨げる最後の試みであり、コンゴ(民)人の人権活動家を封じ込め、国際的人権オブザーバーを国外から退去させるのが目的であると非難した。